

2022年9月15日

最近の長野県経済の動向 (月例調査)

2022年6月、7月の経済データを基に、長野県内の景況を把握したものです。

概 要

全国景気*	緩やかに持ち直している
長野県内景気	持ち直しの動きに弱さがみられる
6月の生産動向	生産は足踏みがみられる
7月の個人消費	乗用車新車販売は14カ月連続で前年を下回る
7月の公共投資	公共工事保証請負額は2カ月連続で前年を下回る
7月の住宅投資	新設住宅着工戸数は2カ月連続で前年を下回る
7月の雇用情勢	有効求人倍率は横ばいで推移

今後は、原材料価格上昇による物価への影響や新型コロナウイルス感染再拡大による個人消費の動向などを注視する必要がある

※内閣府「月例経済報告(2022年8月)」より

照会先

一般財団法人 長野経済研究所 調査部

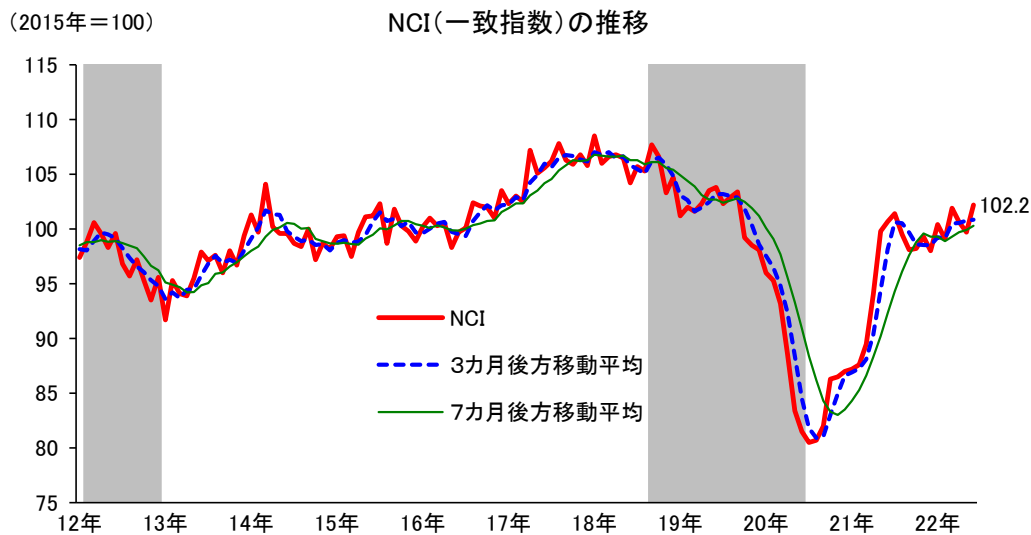
担当 桑井、中村

電話 026-224-0501

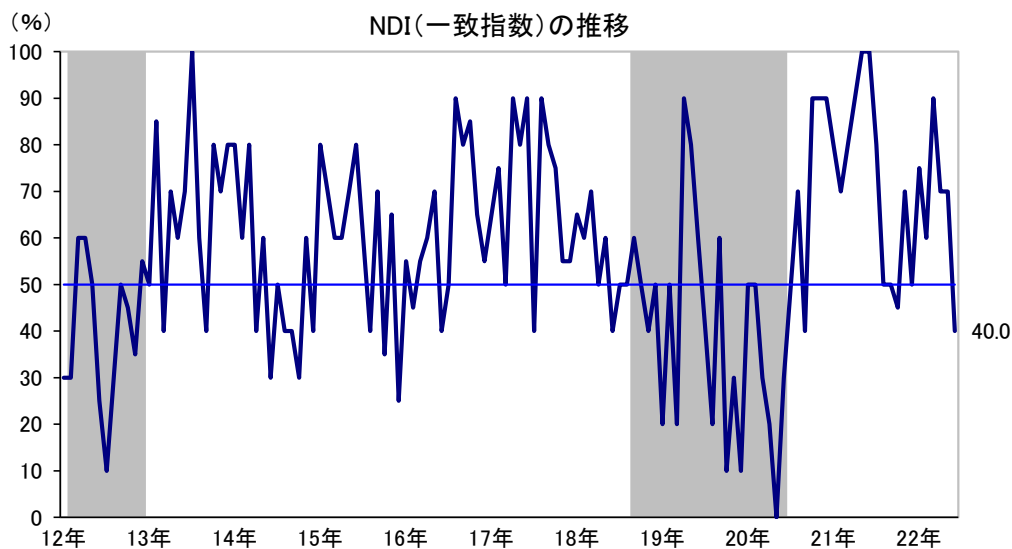


景気動向指数

- ・6月のNCI(一致指数)は、102.2と前月と比較し+2.5ポイントとなった。3カ月後方移動平均は同+0.1ポイントと4カ月連続で上昇し、7カ月後方移動平均は同+0.4ポイントと4カ月連続で上昇した。NCI(一致指数)は、改善を示している
- ・NDI(一致指数)は、40.0%となり、景気判断の分かれ目となる50.0%を8カ月ぶりに下回った。



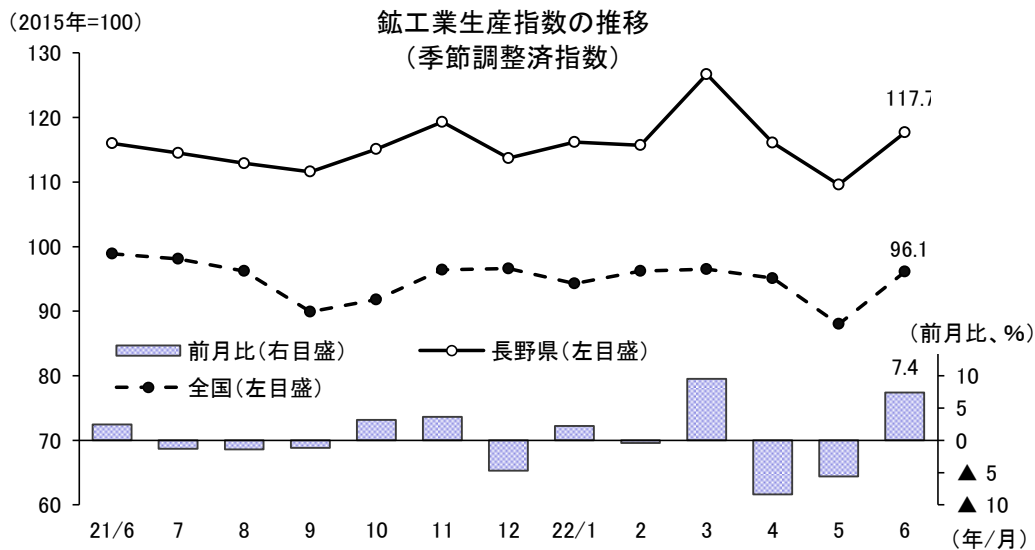
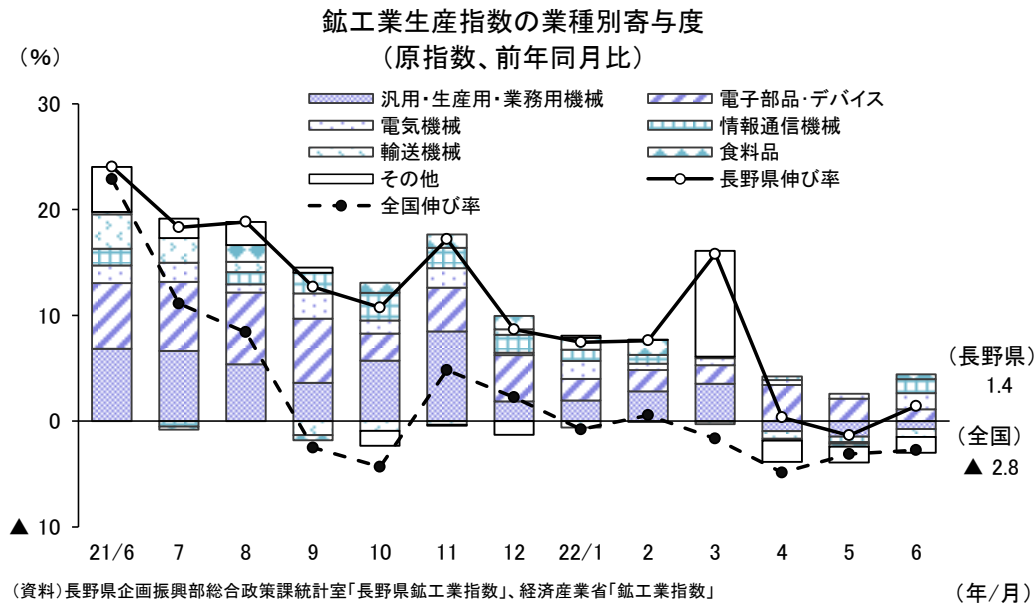
(資料)当研究所「長野県景気動向指数」
 注1.NCIは長野県の景気変動の大きさやテンポ(量感)を示す
 注2.シャド一部分は長野県の景気後退期を示す



(資料)当研究所「長野県景気動向指数」
 注1.NDIは長野県の景気の方角、波及度合いを示す
 注2.シャド一部分は長野県の景気後退期を示す

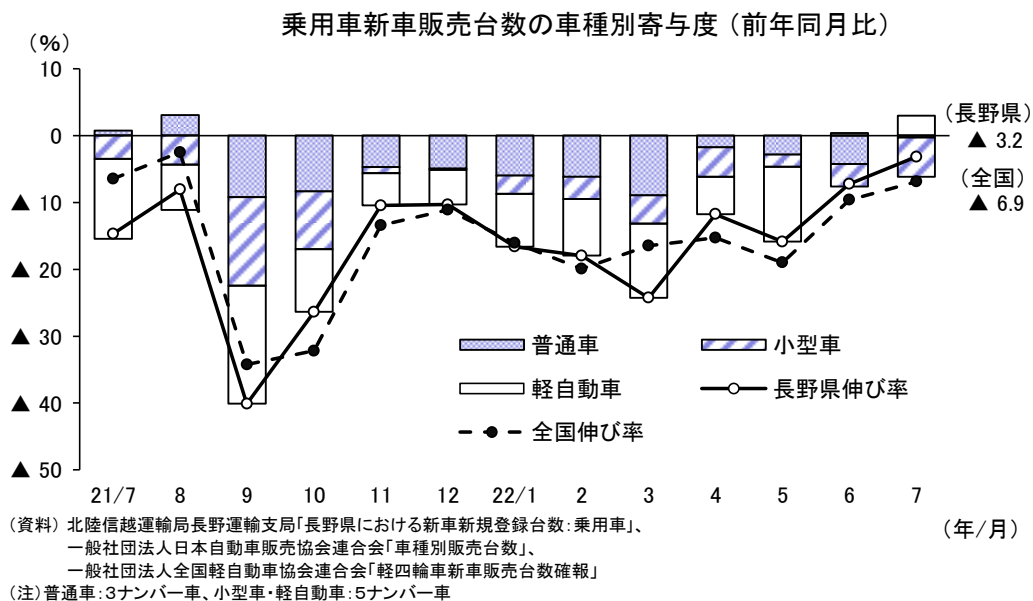
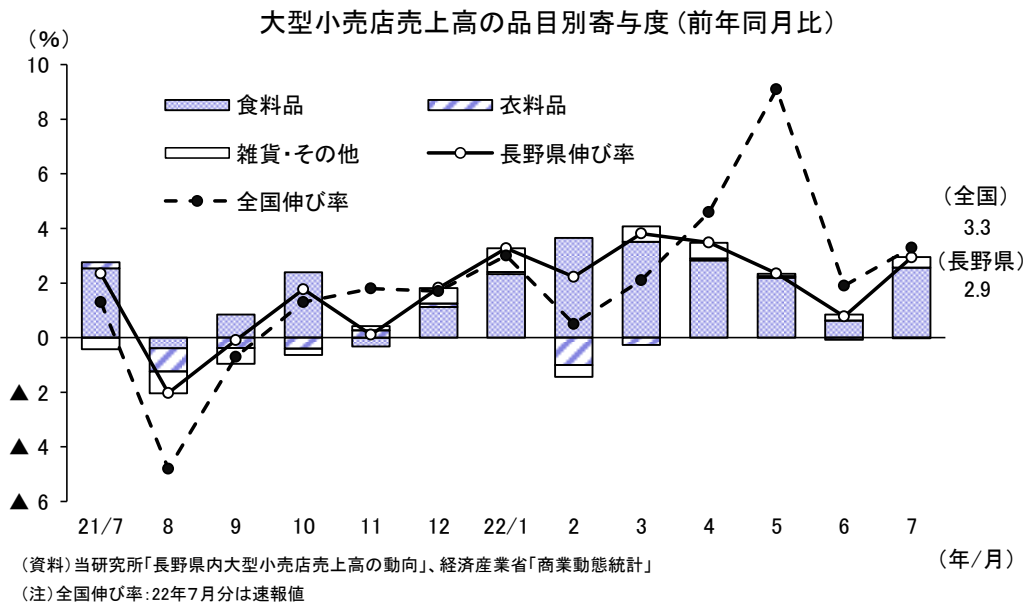
生産は足踏みがみられる

- ・6月の鉱工業生産指数は、原指数が前年同月比+1.4%、季節調整済指数が前月比+7.4%となった。
- ・原指数は2カ月ぶりに前年を上回り、季節調整済指数も3カ月ぶりに前月を上回った。上海のロックダウンが解除され供給制約は解消されつつあるが、半導体などの部品不足の影響は続いており、生産は足踏みがみられる。
- ・主要業種別にみると、「電子部品・デバイス」、「電気機械」、「情報通信機械」などの業種で前年を上回ったが、「汎用・生産用・業務用機械」、「輸送機械」などが前年を下回った。



乗用車新車販売は14カ月連続で前年を下回る

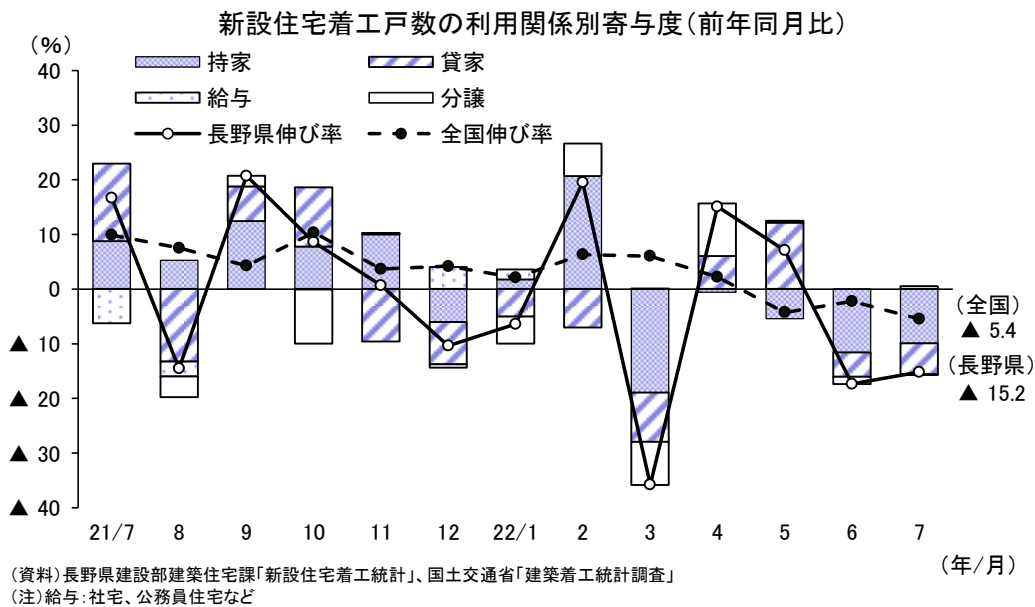
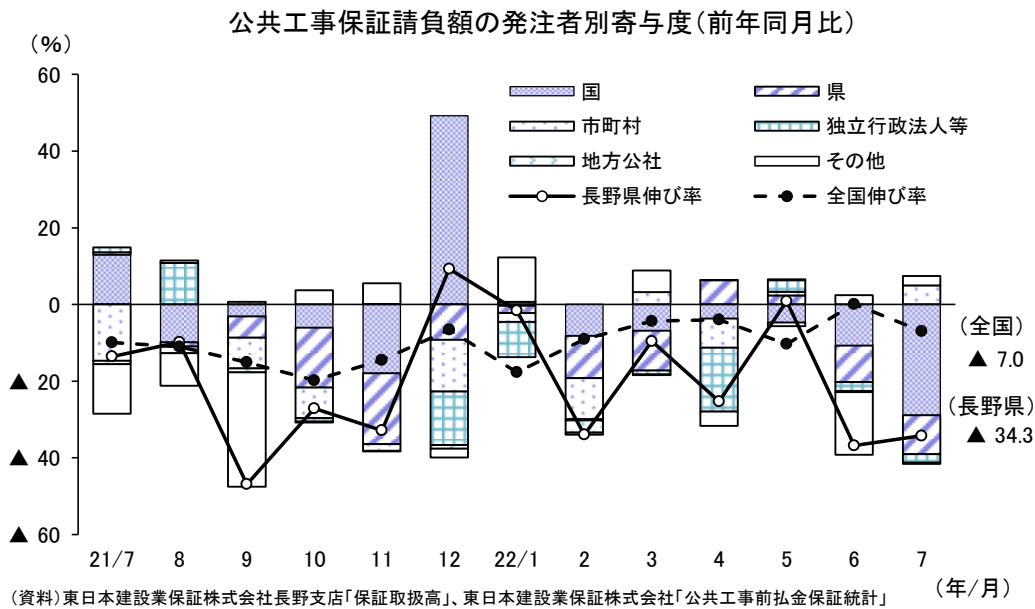
- 7月の大型小売店売上高は、前年同月比+2.9%（売場面積調整前）となり、10カ月連続で前年を上回った。食料品は、生鮮食品が堅調だったほか、原材料価格の高騰に伴う販売価格の上昇などから、同+3.0%となった。衣料品は、クリアランスセール以降は客足が鈍く、同△0.3%だった。雑貨・その他は、身の回り品や化粧品などの売り上げが増加し、同+4.1%となった。
- 7月の乗用車新車販売は、半導体不足や上海のロックダウンの影響等で納車遅れが続いており、前年同月比△3.2%と14カ月連続で前年を下回った。普通車は同△0.9%と11カ月連続で、小型車は同△21.6%と15カ月連続で前年を下回った。一方、軽自動車は同+7.5%と2カ月連続で前年を上回った。



建設投資

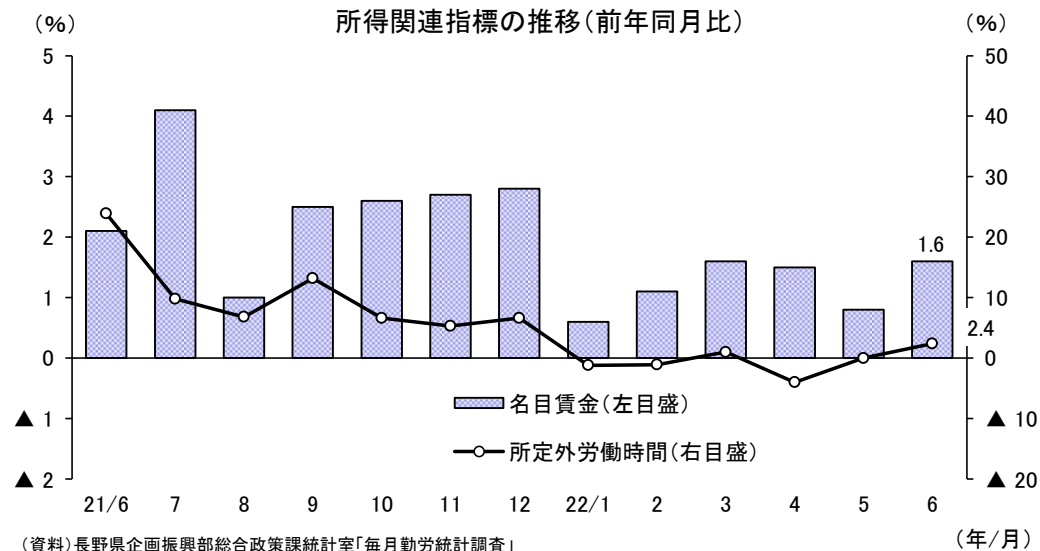
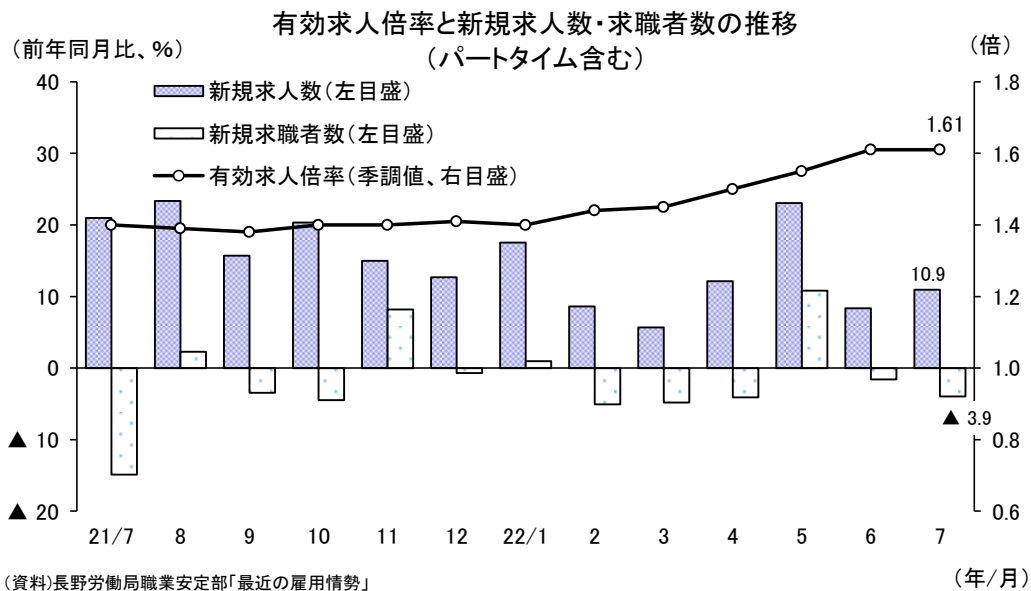
公共工事保証請負額、新設住宅着工戸数ともに2カ月連続で前年を下回る

- ・7月の公共工事保証請負額は、前年同月比△34.3%の156億400万円となり、2カ月連続で前年を下回った。発注者別にみると、市町村が同+20.0%、その他が同+511.6%と増加したものの、国が同△69.9%、県が同△34.5%、独立行政法人等が同△59.5%、地方公社が同△82.4%と減少した。
- ・7月の新設住宅着工戸数は、前年同月比△15.2%の983戸と2カ月連続で前年を下回った。利用関係別にみると、分譲が同+4.5%と増加したものの、持家が同△17.1%、貸家が同△18.9%と減少した。



有効求人倍率は横ばいで推移

- ・7月の有効求人倍率は、前月と変わらず1.61倍となった。
- ・新規求人数(全数)は前年同月比+10.9%となり、17カ月連続で前年を上回った。このうち常用は同+10.7%、パートは同+11.9%となった。主要産業別では、建設業が同△7.9%と前年を下回ったものの、宿泊業・飲食サービス業が同+64.4%、卸売業・小売業が同+16.8%、医療・福祉が同+8.6%、製造業が同+4.4%などと前年を上回った。
- ・新規求職者数(全数)は、前年同月比△3.9%と2カ月連続で前年を下回った。
- ・6月の名目賃金は前年同月比+1.6%と14カ月連続で前年を上回り、所定外労働時間は同+2.4%と、2カ月ぶりに前年を上回った。



県内地域別・近隣都県別有効求人倍率

15カ月連続で4地域とも前年を上回る

- ・7月の地域別有効求人倍率(全数)は、北信が前年同月比+0.15ポイントの1.47倍、東信が同+0.16ポイントの1.58倍、中信が同+0.32ポイントの1.56倍、南信が同+0.20ポイントの1.57倍となり、15カ月連続で全ての地域で前年を上回った。
- ・職業安定所別有効求人倍率(全数)は、木曽福島を除く全ての職業安定所で前年を上回った。
- ・長野県の有効求人倍率は22カ月連続で全国を上回り、順位は前月から1つ下げ6位だった。

長野県職業安定所別有効求人倍率(実数値)(22年7月)

地域	北 信(1.47) (前年同月比0.15)				東 信(1.58) (前年同月比0.16)		中 信(1.56) (前年同月比0.32)			南 信(1.57) (前年同月比0.20)		
	長野	篠ノ井	飯山	須坂	上田	佐久	松本	木曽福島	大町	飯田	伊那	諏訪
全 数	1.50	1.39	1.45	1.53	1.52	1.66	1.57	1.68	1.39	1.55	1.54	1.62
前年同月比 (ポイント)	0.14	0.09	0.25	0.23	0.17	0.17	0.33	▲ 0.11	0.33	0.14	0.15	0.30
うち常用	1.32	1.34	1.37	1.45	1.41	1.58	1.29	1.59	1.27	1.44	1.33	1.54
前年同月比 (ポイント)	0.10	0.08	0.22	0.27	0.29	0.21	0.25	▲ 0.07	0.28	0.16	0.15	0.30

(資料)長野労働局職業安定部「最近の雇用情勢」
(注)実数値とは、新規学卒を除きパートタイムを含む季節調整前の原数値

